



兵庫県立尼崎小田高等学校
主幹教諭 福田 秀志

1 はじめに

兵庫県立尼崎小田高等学校は、サイエンスリサーチ科、国際探求学科、普通科、普通科看護医療・健康類型がある学校で、今回ご紹介する活動の中心を担っている普通科看護医療・健康類型は、平成25年4月に設置されました。この活動以外に地域課題の解決のために在宅療養（看取り）、地域の商店街の活性化と子ども支援に取り組んでいます。

平成28年4月の熊本地震を契機に、生活に密着した防災・減災を高校時代に学ぶことによって、災害医療・災害看護に結びつけることができると考え、この活動に取り組むことにしました。

本校が立地する尼崎市長洲地区は海拔ゼロメートル地帯であるとともに、高齢化率も高いにも関わらず、東日本大震災以降も災害に対する意識が低く、「公助」に頼る状況があります。そういう中で本校が地域のハブとなり、地域のコミュニティを繋ぎ、「共助」のまちづくりの一翼を担おうと様々な活動を行うことにしました。今年の4月から4年目の取組となります。

2 取組の内容

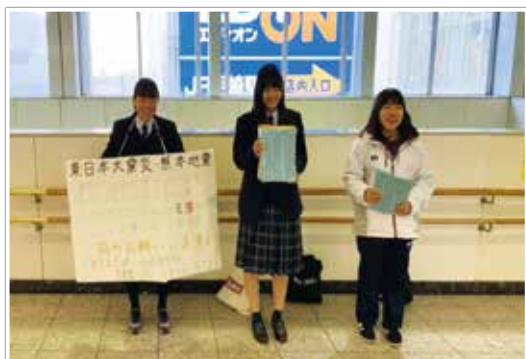
本校は平成28年から、文部科学省「実践的安全教育（防災）総合支援事業」指定校を受け、現在まで続いています。

看護医療・健康類型では2年生での総

合的な学習の時間を「探究応用」と呼び、この活動に当てています。過去3年間の活動の主な内容は、①災害避難、避難所設営・避難所運営を学校と地域住民がスムーズに行えるよう「災害図上訓練（DIG）」、「避難所運営ゲーム（HUG）」、「クロスロードゲーム」などを生徒と地域住民が連携して行う。②毎年、生徒が地域の自治会や福祉避難所の防災の訓練に参加し、顔の見える関係を築いていく。③高校生と地域住民の連携と信頼関係のもと、GIS（地理的情報システム）を使って高校生と地域住民と一緒に街歩きを重ね、防災絆マップを作成し、個々の地域住民の方に手渡す。④地域の小学校や地域住民への防災出前授業を実施。また、市役所主催のイベントに参加し、地域住民に防災・減災の取組を報告するとともに、一緒に防災・減災に強い、地域コミュニティづくりのためには、どうすれば良いのかについて話し合いを持つ。⑤毎年3月に宮城県の南三陸町か熊本県の益城



益城町傾聴ボランティアにてハンドマッサージを実施



東日本大震災・熊本地震募金活動



あまおだ減災フェスティバル

町に傾聴ボランティアに出かけ、駅頭で集めた募金を手渡すとともに、被災地の実態と復興の様子を地域住民に知らせる活動を実施。⑥平成30年11月には、兵庫県立大学減災復興研究科・学部生の協力の下、地域コミュニティづくりのハブとして本校が機能できるように「あまおだ減災フェスティバル」を実施。

3 災害時要配慮者の支援

看護医療・健康類型は、将来看護・医療職に就くことを目指し、難病患者、医療的ケアが必要な方、障がい者、高齢者、妊婦・幼児など災害時に配慮が必要な方の支援について、以下のような取組を行っています。

①要配慮者・避難行動要支援者の避難・支援をスムーズに行うためにどうすれば良いのか。②指定避難所で災害関連死をなくすためにはどうすれば良いのか。③福祉避難所を増やすためにはどうすれば良いのか。④指定避難所に福祉避難所機能（要配慮者の専用スペースの設置）を持たせるためにはどうすれば良いのか。

災害時要配慮者の支援態勢については進んでいない状況です。しかし、私たちは絶対に前に進めなければならない問題だと捉え、今年度は特に「高校生の私たちにできることは何か」をテーマにさらに進めています。

4 おわりに

尼崎市の福祉課や地域住民と連携しての取組が地域で話題となり、様々な団体から、出前授業や高校生の活動を報告してほしい旨の依頼がありました。防災・減災の取組が尼崎市全体に広がっており、地域コミュニティ（共助）の大切さが住民全体に意識化されてきています。

また、以上が評価され、「ぼうさい甲子園 高校生部門奨励賞」（平成30年1月）、「ひょうごユニバーサル社会づくり賞 団体部門知事賞」（平成30年7月）、「ぼうさい甲子園 だいじょうぶ賞」（平成31年1月）、『地域防災・絆マップ』の作成が「初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰 国土交通大臣賞」（兵庫県立大学大学院と共同受賞、平成30年10月）を受賞しました。